

みんながともに暮らせるまちへ



3 コミュニケーションのポイント

理解しようという
気持ちが大切です。



●目で確認できるものを使いましょう

写真や絵・ジェスチャー・筆談といった目で見てわかるものを使うことで、より相手に伝わりやすくなります。一度で伝わらない場合は繰り返し話し、伝え方を工夫しましょう。最近では、スマートフォンやパソコン・タブレットなど、役に立つ道具も増えてきています。積極的に活用してみましよう。

●気持ちにゆとりをもって接しましょう

言葉を間違えたり、うまく発音できなかったりするときでも、途中で話をさえぎってしまうと、ますます自分の話し方が気になり、話すことが嫌になってしまうかもしれません。相手が言いたいことや、伝えようとしていることは何かなど、理解しようという気持ちが大切です。また、こちらから話すときは、短い言葉でゆっくりと、はっきり伝えるようにしましょう。

●答えやすい聞き方を心がけましょう

なかなか言葉が出にくいときは「はい」「いいえ」で答えられるような質問や、選択肢を挙げてどちらか選べるように質問をしましょう。また、相手の表情や目線・姿勢・動作などの非言語的コミュニケーションから伝えたいことをくみ取ることも、ひとつの方法です。

1 言語障害とは

言語障害は、言葉を理解してから話すまでの過程で何らかの支障があり、人とコミュニケーションをうまくとることができない障害です。種類や症状はさまざま。外見から判断することが難しいため、理解されにくく、誤解されることもあります。しかし、話を聞く人の理解や姿勢などによって、円滑にコミュニケーションをとることができます。



2 主な言語障害

●構音障害

唇や舌、声帯などがうまく働かず、発音がうまくできない障害です。主に「呂律が回らない」「声が出にくい」などの症状がみられます。例として、子音が省略されてしまう（みかん→みあん）、ある音が他の音になってしまう（りんご→りんど）などがあります。



●失語症

脳梗塞や脳内出血、交通事故などにより、脳の言語に関わる部分が傷つくことで言葉がうまく使えなくなる障害です。失語症は、傷ついた脳の場所によっては、話すことだけでなく「聞く」「読む」「書く」ことが難しくなる場合もあります。「聞いて理解することはできるのに物の名前が出てこず、回りくどい話し方になる」、「言葉は聞こえているのに、その意味が分からないことがある」など、症状はさまざまです。

●聴覚障害による言語障害

生まれつき耳が聞こえない、または耳が聞こえにくくなったためにうまく言葉が話すことができない障害です。発音がはっきりしない、話し言葉を自然に身につけることが難しいなどの症状があります。補聴器をつけていても周りのすべての音が大きく聞こえるため、自分の言葉が聞き取れず、はっきりと発音ができないことがあります。

●吃音

最初の音や言葉を詰まらせる・何度も繰り返すなど、滑らかに話すことが難しい障害です。一般的に「どもり」と言われることが多いです。吃音を笑われたり、注意されたりすると、話すことや吃音が出ることに嫌悪感や不安を感じるようになります。うまく話せないという経験を繰り返すことで、話す場面に恐怖を感じてしまうこともあります。

気軽に相談を

田川地区障がい者基幹相談支援センター

障害のある人が住み慣れた地域で、安心して暮らせるように、さまざまな相談を受け付けています。

- 障害福祉サービスの利用に関する相談
- 権利擁護の相談 ○暮らしに関する相談
- 専門機関の紹介 など

(☎23-0400、FAX 23-0425)

メール tagawa-kikan@gaea.ocn.ne.jp

身体障害・知的障害に関する相談

市には、障害のある人やその家族からの相談を受け、助言などを行う障害者相談員がいます。ひとりで悩まず、気軽に相談してください。

●身体障害者相談員

藤光 若生 (☎090-8836-9747)

えんがうち まさみ
円垣内正己 (☎42-8360)
やまもと りつ
山本 律 (☎44-2908)
せきの かおり
関野 加織 (FAX 42-2000)*

●聴力言語障害者生活相談員

にしかわ けいこ
西川 慧子 (FAX 42-2000)*

*高齢障害課のFAXを通じて相談

●身障なんでも相談（身体障害者団体連絡協議会）

○と き 毎月第4日曜日 9時30分～12時30分
○ところ スマイルプラザ田川

●聴力言語障害者生活相談

○と き 毎月第2・4水曜日 13時～16時
○ところ スマイルプラザ田川

●知的障害者相談員

うしじま みきこ
牛島実基子 (☎44-0394)
もとなが すみこ
本永 澄子 (☎42-5989)

